

## 【優秀賞】

タイトル：心

生徒氏名：成田芽依

いじめって何だろう。そんなに深く考えた事がない。いじめについての本を読んだ事がある。何となくいじめについて分かった。でも、本だからいじめについての実感が湧かない。いじめなんて絶対に起こらないだろう。私は、他人事のようにそう思った。しかし、起こったのだ。いじめが。

実は私は、いじめる側にいた。あの子が配った給食なら食べるけど、その子が配った給食は食べない。あの子にさわられたり、さわられた所を汚い手でさわられた様にぬぐう。その子が通ると避ける。その子の前でわざと、「くさい。」「汚い。」「キモイ。」など心の無い言葉を平気で言うのだ。でも、その時は全然罪悪感がなく、まさか、こんなに大きな話しになるとは思わなかった。

ある日、先生が「みんなに話したい事があります。」と言った。何だろう。と思っていた。「このクラスでいじめられている子がいます。」まさかね…。絶対にあの事ではない。と心の中で思っていた。しかし、先生が話した事と私達がやった事が全く一緒だった。みんながザワザワしている。友達と目を合わせ「あの事かな？」と言ってキョロキョロしている人もいた。先生は目に涙をうかべながら「この子がどれだけ苦しんだか分かる？」と訴えた。いじめていた時はその子の気持ちを考えずにいたかもしれない。だって、その子は酷い事をされているのにもかかわらず、ずっと笑っていたのだから。「この子は、笑ってまでがまんしてまでみんなと仲良くしたくて、仲間に入りたかったんだよ。」やっと分かった。この子は無理して笑っていたんだ。もしも私とその子の立場だったら。私はその子みたいに笑ってられないだろう。すぐに逃げだしていただろう。あんな所に戻りたくないだろう。もしかしたら、学校に行きたくない。そう思っていただろう。しかし、あの子は「みんなと仲良くしたい。」そういう思いでがまんしていたのだ。私はその子みたいに強くはなれないと思う。「友達がやっていたから。」「自分だけしないと自分も仲間はずれにされそう。」という思いで私はいじめていたのだから。それだけ弱かったのだ。私の心は。だから私はその子の様に強い心になれるとは思わない。このいじめで、その子が負った傷は本人にしか分からないものだと思う。「次は同じ失敗を繰り返さない。」私はそう決めた。一回傷つけてしまったのだから。これまで話したのは、小学生の時の話。今から話すのは、つい最近の話。

「調子に乗んな。」えっ。今のは何？廊下ですれ違った時に言われた。何が起きたのか分からない。いきなり言われたから頭の中が整理できていない。「何か

したっけ？」ずっとそればかりを考えていた。「大丈夫？」友達に言われた。自分でも大丈夫なのか分からない。授業中もさっきの事ばかり考えていて授業にならなかった。水飲み友達と行った時、「死ね。」と、さっきと同じ人に言われた。意味が分からない。その一言がぐさってきた。悔しい。そんな思いだった。何の涙か分からないけど、涙が止まらなかった。その時、教室だったから、「なんで泣いてんの？」とみんなに聞かれた。その時「何も。」と言うのが精いっぱいだった。授業中にこんな事を思っていた。「このまま友達居なくなっていくのかなあ。」と。でも、それは間違いだったのかもしれない。ある友達は、ずっと一緒にいてくれた。すごく力になったし、心の支えになった。そして、違う友達も、「今、辛いだろう？」って聞いてくれた。「全然。」って言おうとしたのに、涙が止まらなかった。次の日、学校に行ったら、あの人居る。怖かった。けど、隣には友達が居る。安心できた。しかし、「うぜーし死ね。」また言われた。隣に居た友達は「大丈夫。」そう言ってくれた。教室に行き、「また言われた。」と友達に言った。すると、「気にすんな。」と言われた。その時、手紙を渡された。「今読んで。」と言われたので読んだ。読まなきゃ良かった。そこには、「力になれなくてゴメン。」「何があっても、ずっと一緒にいるよ。」と書いてあったのだから。涙があふれてきた。違うクラスの友達からも手紙が来た。これも読まなきゃ良かった。「無理しないでちゃんと頼ってよ。」「何があっても味方だから。」涙がどんどん流れてきた。この時、私は初めて友達のありがたさを感じた。自分の周りにはこんなにも自分の事を思ってくれる人がいてくれるんだなあと思った。私はこの時、友達を大事にしようそして、人を大事にしよう。そう決めた。それが人権を守る事につながっていくと思うから。